

地域農業の在り方等を踏まえた市町村支援計画等の概要

【地区の概要】

- 県の開発事業により、緩傾斜地へ園地が整備された果樹(ぶどう)生産主体の地区
- 農業者の高齢化に対応するため、生産組合、JA等関係機関が連携して新規就農者の育成・確保に取り組んでいる。

【支援内容・背景】

- 農業者の高齢化や後継者不足により、今後耕作ができない農地が発生する恐れがあるため、生産組合が主体となり、関係機関と連携し、新規就農者の育成に取り組んでいる。
- 新規就農者の経営安定により、地域の担い手として育成・確保を図るため、加温栽培用パイプハウスの導入及び経営の法人化を支援。



助成対象者「株式会社Mファーム」の経営の状況と事業内容

【経営の経緯】

- 平成28年 先進農家にて研修
- 平成29年 園地を継承し就農
- 平成31年 青年等就農計画の認定
- 平成31年 人・農地プランの中心経営体に位置付け
- 令和元年 事業によりハウスを導入
- 令和3年 法人化(株式会社)
- 令和4年 法人の経営改善計画の認定

《事業活用の背景》

○ 地域の担い手として定着するために、売り上げの増加及び適期作業の分散による栽培面積の拡大を図るため、加温栽培用ハウスを導入し、あわせて、経営を法人化する。

【事業実施時の状況】
〈H30年度〉

- 売上高 14百万円
- 経営面積 58a
- 〔 露地ぶどう 58a 〕
- 個人経営

《事業による整備内容》

- 加温栽培用パイプハウス 2,749㎡
- 事業費 23,319千円 (国費 10,185千円)



【現在の経営状況】
〈R4年度〉

- 売上高 24百万円 **71%増**
- 経営面積 63a **8%増**
- 〔 露地ぶどう 36a 〕
- 〔 加温ハウス 27a 〕
- 法人経営

事業の
効果

《対象者》 加温栽培により、ぶどうの作業時期をずらすことで、経営面積を拡大。売上高が増加し、農業経営が安定した。

《地区》 長期的に農業経営が継続できる地域の担い手となる法人経営体が確保できた。